

## 令和8年度外国人児童生徒等への日本語指導指導者養成研修 実施要項

### 1 目的

日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、学校教育法施行規則が改正され、日本語の能力に応じた特別の指導を行うための特別の教育課程が制度化された。また、学習指導要領において、「海外から帰国した児童生徒や日本語の習得に困難のある児童に対する日本語指導」の重要性が示されている。このような実態を踏まえ、児童生徒等の実態に応じた適応指導・日本語指導を関係機関と連携し、受け入れ体制を整備するなど、組織的・計画的に学校全体で行うことを指導できる教職員の専門性を高めることが求められている。

本研修では、学習指導要領に基づいて、地方公共団体や学校全体での外国人児童生徒等の受け入れ体制の整備、関係機関との連携、特別の教育課程の編成や通級による指導を含めた日本語指導の方法について、必要な知識等を習得する。さらに本研修後の成果活用を通して、1) 外国人児童生徒等に対する教育の推進に必要な専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校や地域において研修を企画・実施し、学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力を習得した指導者の養成を図る。

2 主催 独立行政法人教職員支援機構、三重県教育委員会

3 共催 文部科学省

### 4 期間・実施方法・会場

実施方法	期間	会場
オンデマンド	7月～10月（予定）	自宅・勤務地等
リアルタイム・オンライン研修	令和8年8月18日（火）～ 令和8年8月19日（水）	自宅・勤務地等
対面研修	令和8年9月28日（月）～ 令和8年9月29日（火）	三重県総合教育センター 〒514-0007 三重県津市大谷町12番地 Tel. 059-226-3428

※本研修はインターバル型研修として実施するため、参加者は全日程の参加を前提とする。

5 標準定員 100名

### 6 参加者

#### (1) 参加資格

本研修の内容を踏まえ、各学校や地域において研修を企画・実施する指導者として活動を行う者で、原則として、外国人児童生徒等への日本語指導の経験を3年以上有する者（※）

- ① 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれに準じる者
- ② 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及びに特別支援学校の校長、副校長及び教頭
- ③ 外国人児童生徒等への日本語指導等について経験を有する小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及びに特別支援学校等の主幹教諭、指導教諭及び教諭等

- ④ 教職員支援機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のあるものに限る）

※「第6次男女共同参画基本計画」〔令和8年3月13日閣議決定〕を踏まえ、本研修における女性教職員の割合を25%以上とすることを、当機構として目指している。女性の積極的な推薦について配慮されたい。

※3年未満の参加も可能であるが、事前に、当機構が指定する以下の動画を視聴して参加することを推奨する。

(1) NITS 校内研修シリーズ（独立行政法人教職員支援機構）

- ・外国人児童生徒等に対する日本語指導：校内研修シリーズ No. 176

(2) 外国人児童生徒等教育に関する動画コンテンツ（文部科学省）

- ・外国人児童生徒等の受入れ
- ・外国人児童生徒等教育の考え方
- ・日本語指導の方法1
- ・日本語指導の方法2
- ・外国人児童生徒等のキャリア教育

(2) 推薦人数

各都道府県教育委員会においては2名程度とする。各指定都市教育委員会、各中核市教育委員会、各都道府県知事部局、附属学校を置く各国公立大学、国立青少年教育振興機構等においては1名程度とする。なお、中核市を複数有する都道府県においては、各中核市からの推薦数を1名以内とした上で、上記基準を超過して推薦できるものとする。ただし、超過は各中核市から推薦があった人数分に限る。

(3) 推薦手続

推薦期限は、令和8年6月24日（水）とする。

各機関（各都道府県・指定都市教育委員会、各都道府県知事部局、附属学校を置く各国公立大学、国立青少年教育振興機構、教職大学院を置く各大学）においては、推薦する参加者を取りまとめて、「研修システム」により推薦を行う。ただし、中核市教育委員会においては、[様式1]により都道府県教育委員会に連絡し、都道府県教育委員会が「研修システム」により推薦を行う。また、推薦がない場合であっても、担当者情報を登録すること。

※推薦者は、研修修了者に対し、研修成果を効果的に活用する機会（各学校や地域での研修等）を設けること。

(4) 参加者の決定

各都道府県・指定都市教育委員会等からの推薦に基づき、三重県教育委員会と教職員支援機構が協議の上決定し、通知する。定員を超過する場合は、参加者を調整する場合がある。複数名推薦する場合、推薦順位が高い順番にシステムに登録すること。

## 7 研修内容

別紙1「日程表」のとおりとする。

## 8 事前課題

演習・協議用資料として、事前に課題（研修成果活用計画書を含む）を作成し、提出すること。  
なお、内容、提出期限、提出方法については、参加者決定時に別途連絡する。

## 9 その他

- (1) 所定の課程を修了した者には、修了証書を授与する。参加者推薦の際に、必ず参加者の氏名を確認し、正確に記入すること。
- (2) 宿泊が必要な場合の手配等については、各自で行う。研修の参加に際し、特別な配慮が必要な者（障害、持病等）を推薦する場合には、事前に当機構に相談すること。
- (3) 本研修では、「Google Workspace」を利用する。利用に際し、Google アカウントや簡易マニュアルは当機構で作成し、参加者決定時に連絡する。
- (4) 本研修では、Web 会議サービス「Zoom ミーティング」（(株) Zoom コミュニケーションズ）を用いて同時双方向通信を行う。参加に当たっては、当該ソフトウェアのインストールやインターネット通信環境の確保の他、相互に音声・映像をやりとりする協議等ができるよう、音声マイク・Web カメラ等の必要機器を備えた端末を、1 人 1 台準備すること。
- (5) 参加者が研修に専念できるよう、推薦者には適切な参加環境及び研修時間の確保等、特段の配慮をお願いします。
- (6) 「全国教員研修プラットフォーム(以下、「プラットフォーム」という)を利用している自治体からの参加者に関しては、プラットフォームへの本研修の修了状況の登録を当機構で行う。  
登録に当たって、参加者のプラットフォームログイン ID が必要となるため、プラットフォームを利用している自治体は、推薦を行う際に研修システムより候補者毎にプラットフォームログイン ID を入力すること。

## 令和8年度 外国人児童生徒等への日本語指導指導者養成研修 日程表

### <オンデマンド研修>

7~10月 オンデマンド	イントロダクション	外国人児童生徒等教育に必要な資質・能力の捉え方【講義】	最新の動向【講義】
	教職員支援機構	大正大学 教授 中川 祐治	文部科学省

日程  
 オンデマンド形式：令和8年7月～10月  
 リアルタイムオンライン形式：令和8年8月18日（火）～令和8年8月19日（水）  
 対面形式：令和8年9月28日（月）～令和8年9月29日（火）

### <リアルタイム・オンライン研修>

1日目 8/18 (火) オンライ ン	受付	イントロダクション① (60分)	第1講 外国人児童生徒等教育の現状と課題	第2講 外国人児童生徒等の異文化適応と学習の過程	第3講 子どもの言語能力の把握 【講義・演習】	リフレクション (30分)
		教職員支援機構	講義・演習 (90分)  宮城教育大学 教授 市瀬 智紀	講義・演習 (90分)  東京学芸大学 准教授 原 瑞穂	講義・演習 (90分)  大阪大学大学院 教授 櫻井 千穂	教職員支援機構
2日目 8/19 (水) オンライ ン	教職員支 援機構	イントロダ クション② (15分)	第4講 子どもの成長・発達を支える日本語の指導		第5講 これまでの学びの活用に向けて	リフレクション (25分)
		講義・演習 (175分 休憩を含む)	昼休憩	講義・演習 (75分)	講義・演習 (90分)  大正大学 教授 中川 祐治	教職員支援機構

### <対面研修>

3日目 9/28 (月) 対面	受付	諸 連 絡	イントロダクション③ (45分)	第6講 実践を通して学ぶ【講義・演習・協議・評価】			諸 連 絡
			教職員支援機構	【小・中・高】日本語指導の方法と授業づくりについて／【管理職】外国人児童生徒等の指導・支援体制における課題解決策の検討について	講義・演習 (130分 休憩を含む)	昼休憩	
				全体講義後、小学校コース・中学校コース・高等学校コース・管理職コースに分かれて実施			
				全体講義：奈良教育大学 教授 和泉元 千春 小学校コース：横浜市教育委員会事務局 学校教育部 学校経営支援課 指導主事 横溝 亮 中学校コース：浜松市立浜北北部中学校 教諭 佐々木 しのぶ 高等学校コース：神奈川県立相模向陽館高等学校 教諭 佐屋 麻利子 管理職コース：大阪市教育委員会 指導部 人権・国際理解教育グループ プレクラスコーディネーター 山崎 一人 全体：東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ			
4日目 9/29 (火) 対面		第7講 三重県内の外国人児童生徒等教育・日本語指導の取り組み			第8講 本研修の振り返り ～研修後の実践に向けて～	リフレクション (25分)	教 職 員 支 援 機 構
		視察・協議 (210分 休憩を含む)			昼休憩	協議 (40分)	
				a. 鈴鹿市立神戸小学校 b. 伊賀市立緑ヶ丘中学校 c. 三重県立飯野高等学校 d. 初期適応支援教室いっぽ (松阪市)			